

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第152回

(2026年1～3月期)

令和8年4月

桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。

2. 調査時点 2026年3月1日

3. 調査期間 2026年1～3月期

4. 調査対象企業数 346企業（うち回答企業数122企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数13企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数57企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数25企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数27企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d e x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。
このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況D I】

今期の業況D Iは、全体で－22。前期（－29）比は＋7ポイントとなった。また前年同期（－26）比では＋4ポイントとなった。

業種別では、**建設業－15**（前期比＋26、前年同期比＋6）、**商業・サービス業－30**（前期比±0、前年同期比－2）、**機械金属製造業－14**（前期比＋15、前年同期比－1）、**繊維製造業－15**（前期比＋5、前年同期比＋25）となっている。

【採算D I】

今期の採算D Iは全体で－25。前期（－34）比は＋9ポイント、前年同期（－33）では＋8ポイントとなった。

業種別では、**建設業－15**（前期比＋32、前年同期比＋17）、**商業・サービス業－34**（前期比－2、前年同期比－5）、**機械金属製造業－19**（前期比＋14、前年同期比＋6）、**繊維製造業－15**（前期比＋17、前年同期比＋33）となっている。

【来期業況D I】

来期の業況予測D Iは全体で－28。前期（－24）比では－4ポイント、前年同期（－27）比では－1ポイントとなった。

業種別では**建設業－18**（前期比＋13、前年同期比＋13）、**商業・サービス業－32**（前期比－11、前年同期比＋5）、**機械金属製造業－24**（前期比＋18、前年同期比－19）、**繊維製造業－25**（前期比－13、前年同期比－6）となっている。

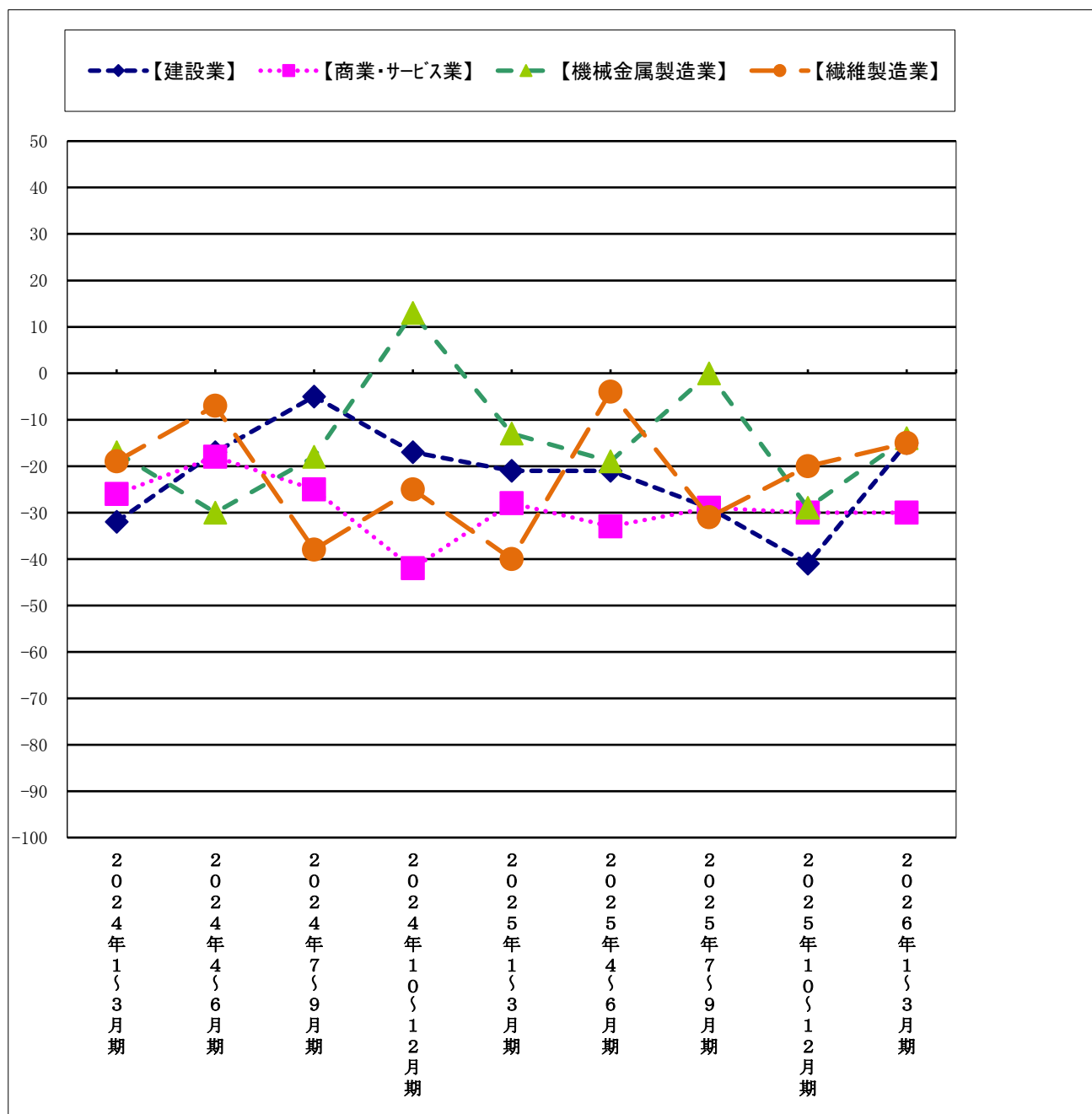
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「材料価格の上昇」（19.4%）、「従業員の確保難」（12.9%）、**商業・サービス業**では「材料等仕入単価の上昇」（14.1%）と「需要の停滞」（13.4%）、**機械金属製造業**では「人件費の増加」（16.4%）、「原材料価格の上昇」（16.4%）、**繊維製造業**では「原材料価格の上昇」（18.6%）、「需要の停滞」（14.3%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2024年1～3月期	-32	-26	-17	-19
2024年4～6月期	-17	-18	-30	-7
2024年7～9月期	-5	-25	-18	-38
2024年10～12月期	-17	-42	13	-25
2025年1～3月期	-21	-28	-13	-40
2025年4～6月期	-21	-33	-19	-4
2025年7～9月期	-29	-29	0	-31
2025年10～12月期	-41	-30	-29	-20
2026年1～3月期	-15	-30	-14	-15

[2024年1～3月期] から [2026年1～3月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 今期の業況D Iは－15。前期比では＋26、前年同期比＋6ではポイントとなった。
業種別では、建築・大工業〔－40〕、土木業〔－100〕、管工事業〔±0〕、鉄骨・鉄筋業〔±0〕、電気工事業〔＋33〕、左官・屋根業〔±0〕、その他〔±0〕ポイントとなった。
- 来期業況 来期業況予測のD Iは－18。前期比＋13、前年同期比では＋13ポイントとなっている。

【商業・サービス業】

- 今期業況 今期の業況D Iは－30。前期比は±0、前年同期比では－2ポイントとなった。
業種別では、卸売業〔±0〕、小売業〔－35〕、飲食業〔±0〕、サービス業では〔－38〕ポイントとなった。
- 来期業況 来期業況予測のD Iは－32。前期比－11、前年同期比では＋5ポイントとなっている。

【機械金属製造業】

- 今期業況 今期の業況D Iは－14。前期比では＋15、前年同期比では－1ポイントとなった。
業種別では、鉄鋼業〔－50〕、非鉄金属業〔±0〕、金属製品業〔＋20〕、一般機械器具業〔－33〕、電気機械器具業〔±0〕、輸送用機械器具業〔＋25〕、精密機械器具業〔±0〕、プラスチック製造業〔－33〕、その他〔－50〕ポイントとなった。
- 来期業況 来期業況予測のD Iは－24。前期比＋18、前年同期比では－19ポイントとなっている。

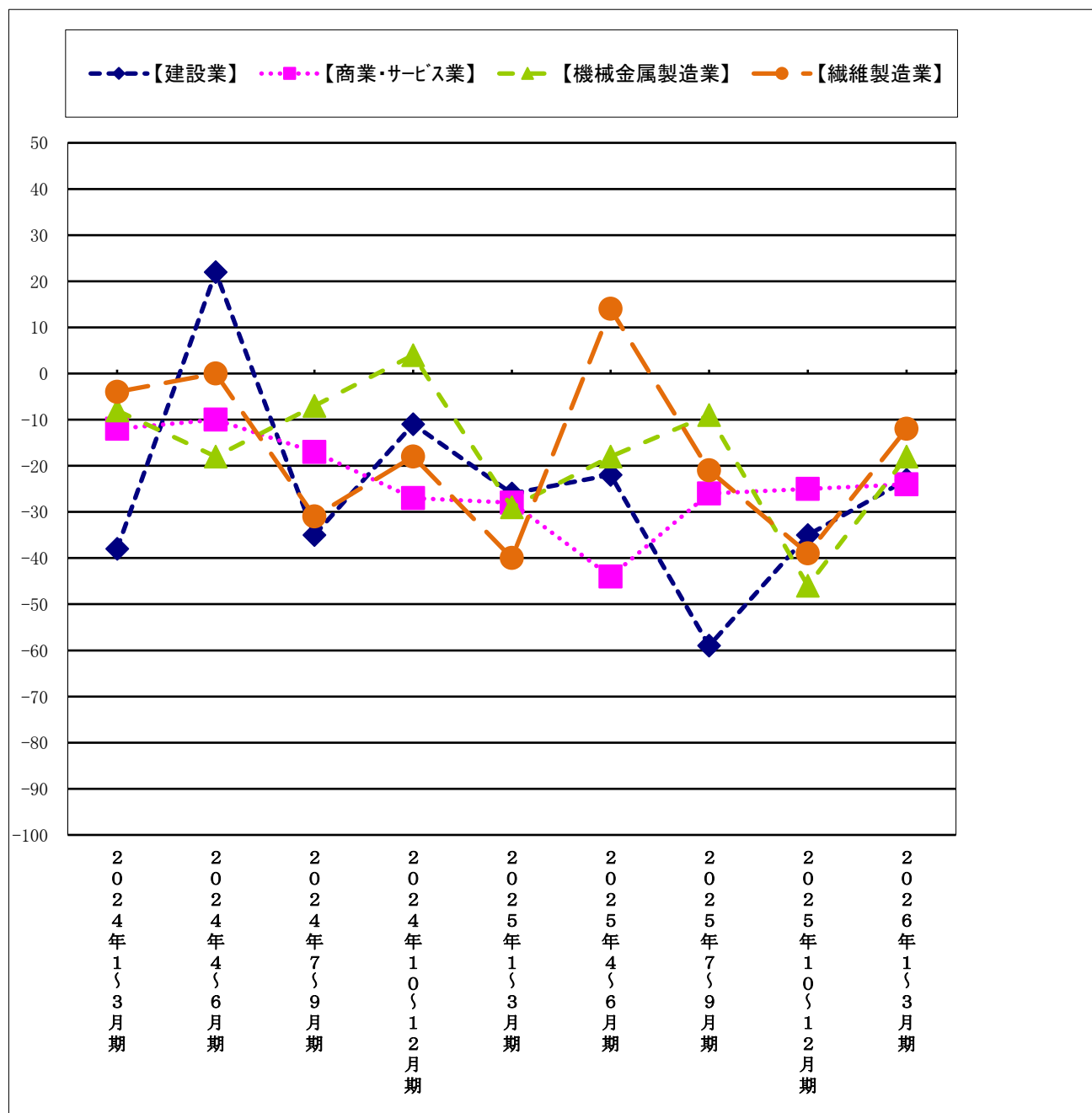
【繊維製造業】

- 今期業況 今期の業況D Iは－15。前期比では＋5、前年同期比では＋25ポイントとなった。
業種別では、捻糸業〔±0〕、織物業〔－9〕、染色整理業〔－40〕、ニット・メリヤス業〔－50〕、レース業〔±0〕、縫製業〔±0〕、刺繍業〔＋20〕、その他〔－50〕ポイントとなった。
- 来期業況 来期業況予測のD Iは－25。前期比－13、前年同期比では－6ポイントとなっている。

売上額（完成工事額）DIの推移

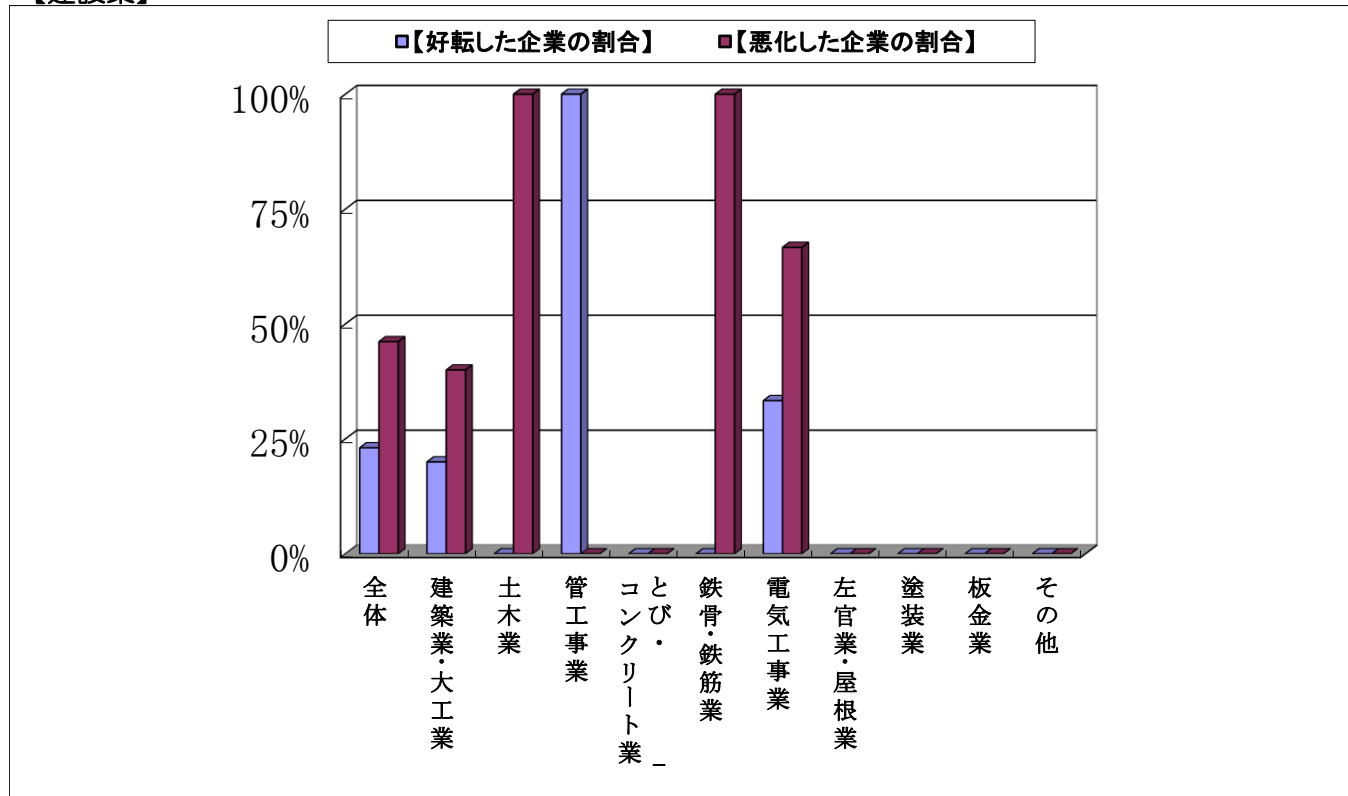
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2024年1～3月期	-38	-12	-8	-4
2024年4～6月期	22	-10	-18	0
2024年7～9月期	-35	-17	-7	-31
2024年10～12月期	-11	-27	4	-18
2025年1～3月期	-26	-28	-29	-40
2025年4～6月期	-22	-44	-18	14
2025年7～9月期	-59	-26	-9	-21
2025年10～12月期	-35	-25	-46	-39
2026年1～3月期	-23	-24	-18	-12

〔2024年1～3月期〕から〔2026年1～3月期〕

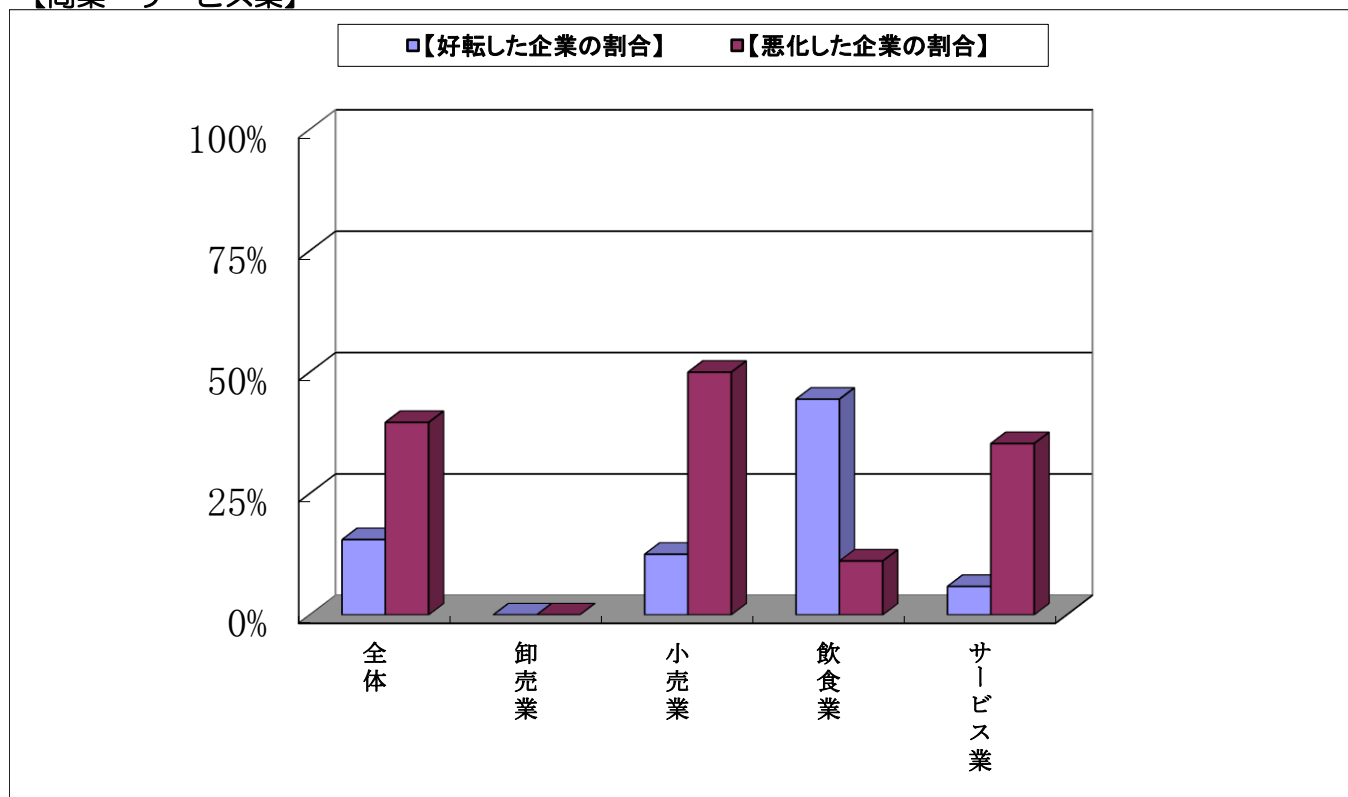


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

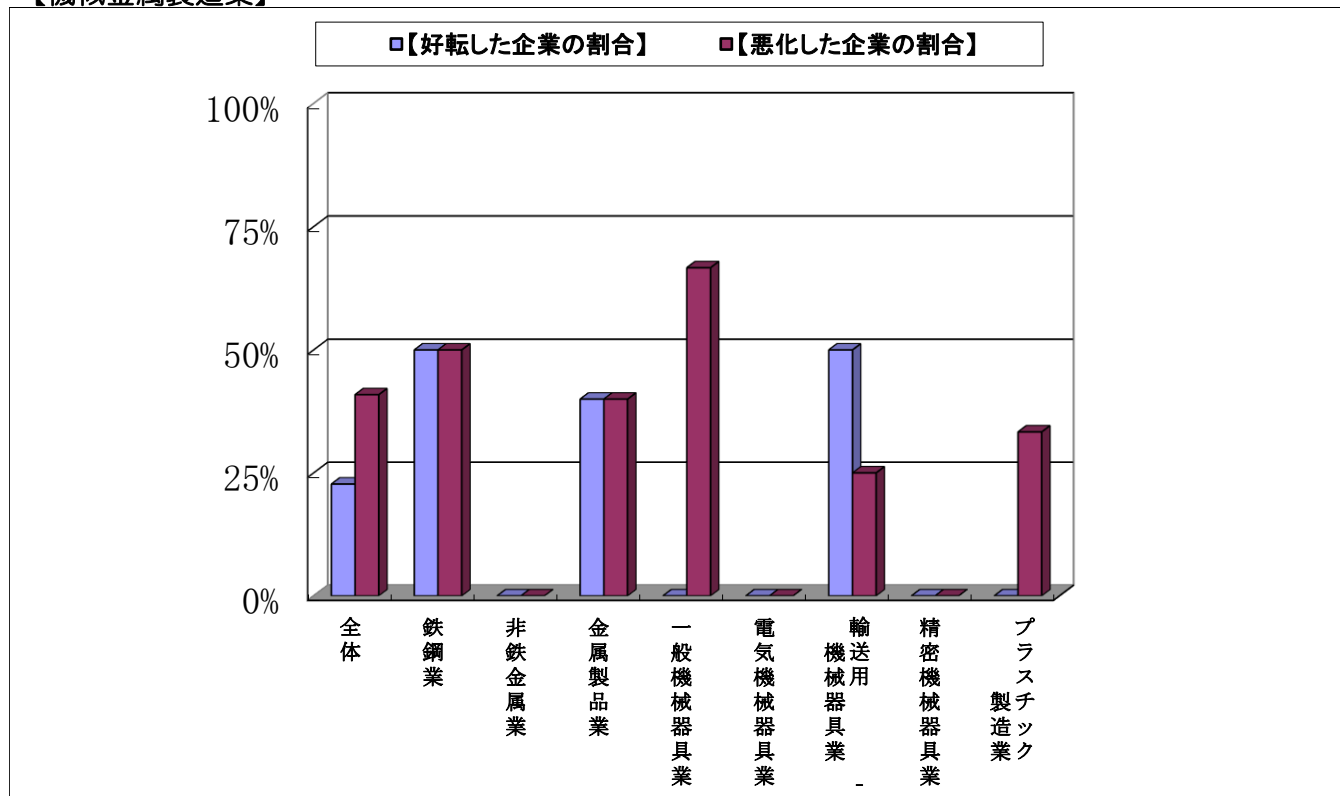
【建設業】



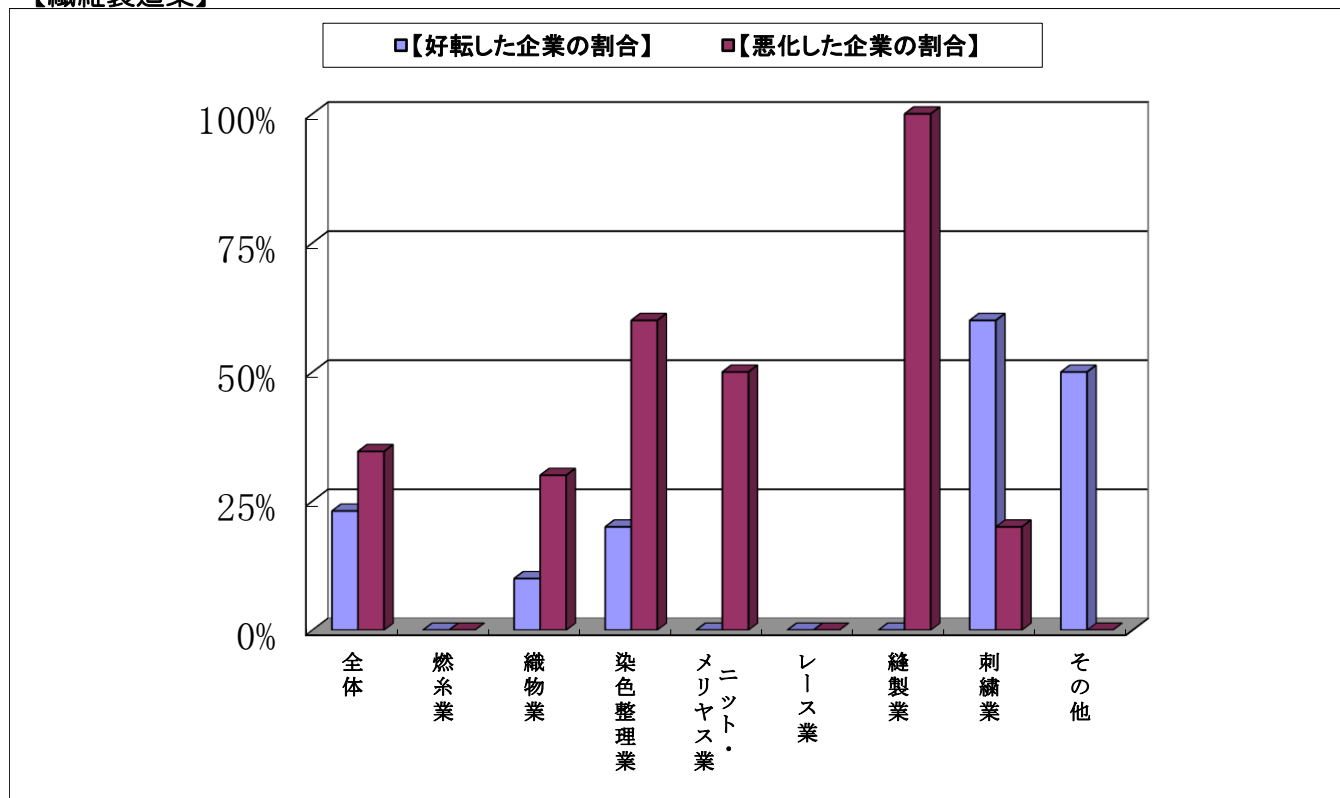
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



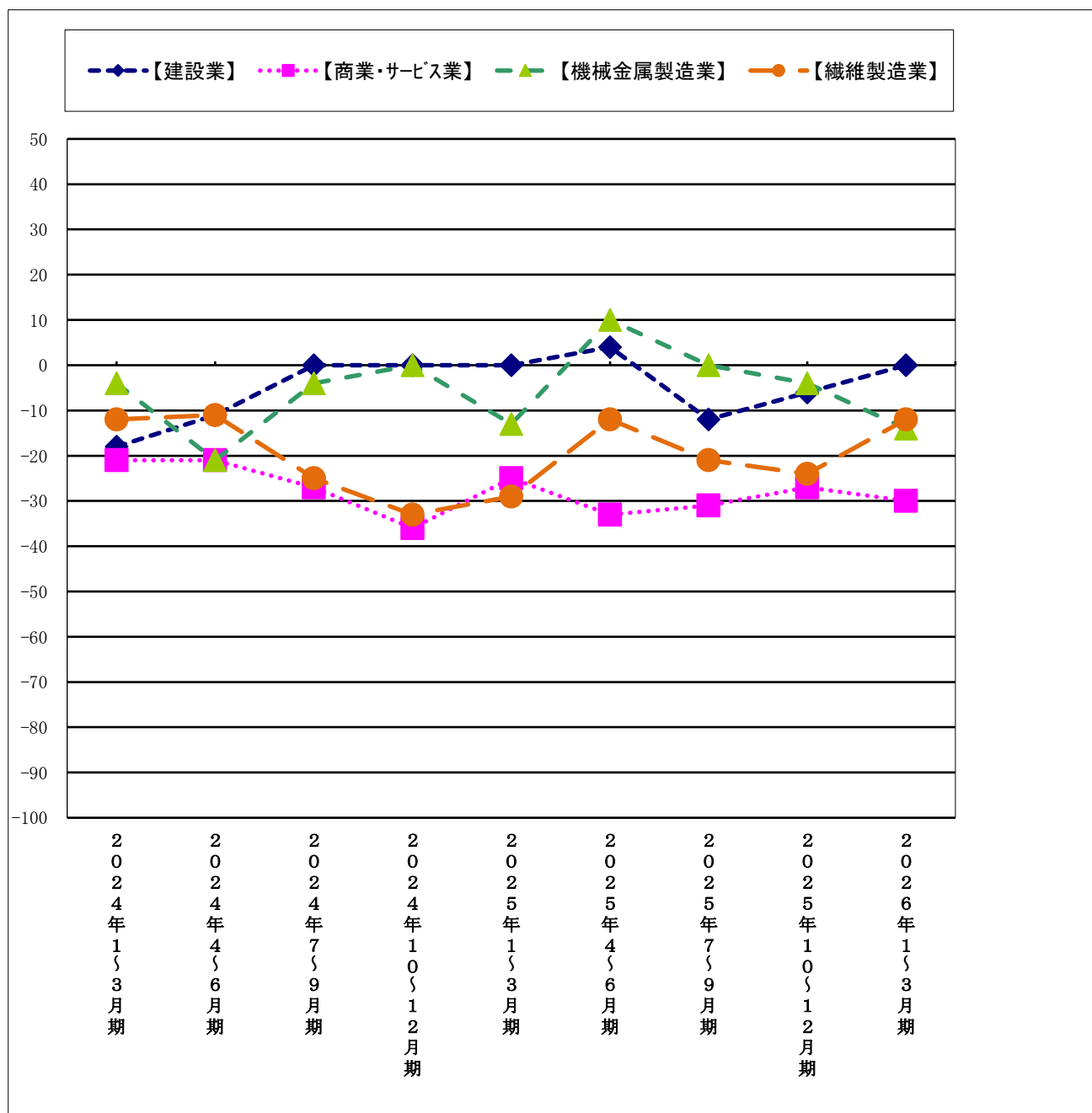
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2024年1～3月期	-18	-21	-4	-12
2024年4～6月期	-11	-21	-21	-11
2024年7～9月期	0	-27	-4	-25
2024年10～12月期	0	-36	0	-33
2025年1～3月期	0	-25	-13	-29
2025年4～6月期	4	-33	10	-12
2025年7～9月期	-12	-31	0	-21
2025年10～12月期	-6	-27	-4	-24
2026年1～3月期	0	-30	-14	-12

[2024年1～3月期] から [2026年1～3月期]



今期直面している経営上の問題点

	1 位		2 位		3 位		4 位		5 位	
建設業	材料価格の上昇		従業員の確保難		官公需要の停滞		熟練技術者の確保難		民間需要の停滞	
	19.4%		12.9%		9.7%		9.7%		9.7%	
前期	3位	13.0%	1位	19.6%	2位	15.2%	4位	10.9%	6位	8.7%
前年同期	1位	23.5%	2位	13.7%	6位	7.8%	4位	7.8%	5位	7.8%
商業・サービス業	材料等仕入単価の上昇		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		人件費の増加		従業員の確保難	
	14.1%		13.4%		12.1%		10.1%		8.1%	
前期	1位	16.8%	2位	12.8%	4位	8.7%	3位	12.8%	6位	6.7%
前年同期	1位	21.2%	7位	6.2%	4位	8.9%	3位	10.3%	5位	8.2%
機械金属製造業	人件費の増加		原材料価格の上昇		製品単価の低下・上昇難		需要の停滞		原材料費・人件費以外の経費の増加	
	16.4%		16.4%		14.9%		11.9%		10.4%	
前期	1位	17.1%	2位	15.8%	3位	14.5%	5位	10.5%	6位	10.5%
前年同期	2位	17.1%	1位	18.6%	5位	10.0%	3位	14.3%	8位	5.7%
繊維工業製造業	原材料価格の上昇		需要の停滞		生産設備の不足・老朽化		熟練技術者の確保難		従業員の確保難	
	18.6%		14.3%		12.9%		10.0%		8.6%	
前期	2位	15.7%	3位	13.5%	1位	20.2%	8位	6.7%	4位	9.0%
前年同期	1位	22.5%	2位	16.9%	3位	12.7%	9位	2.8%	8位	5.6%

事業所からのコメント（直面している問題点など）

〔建設業〕

- 問合せや案件は多数あるが、規模が大きすぎる事。
- 「取適法」施行により、回収サイトが短縮し、一部取引で効果が出ている。
- 不動産物件における一般住宅が停滞気味である。

〔商業・サービス業〕

- 個人消費は低迷しているのではないか？実質賃金マイナスが約2年間に及んでいる。
- 仕入単価（材料）、人件費増加で苦戦してます。
- 物価高の影響により問屋からの仕入単価や食品以外の包材にも大きく出ています。今まで使っていたビニールより、1ランク下げた物を使って今の単価を維持していますが、努力にも限界があります。商品の単価を上げたいところですが、1割上げるとお客様の来店数が減るのではないかと思います、踏み切れないところです。
- 小売店はいらないのですか？
- 市外のお客様は多くなったが、市内は少なくなっている。
- 小・卸売業者も廃業して、特に菓子、パンの仕入が不可能に成る。小売するメイン商品が手に入らず。
- 物価高による買い控えはダブルで打撃、材料費高騰と売上減になるため。
- 物価高騰による消費の低下。賃上げや経費の増加で利益の低下。賃上げをしたが控除額も増加するため手取が増えない。
- 各葬儀1件あたりの収入が、家族葬中心となり大幅に減少。

〔機械金属関連業〕

- 米国関税に加え、メキシコ一般関税率が26年1月1日より引き上げられた。ネクスぺリア半導体共有問題により、自動車メーカーの操業停止や自社でも調達が困難になった。中国からのレアアース規制によりマグネットの調達が懸念される。

〔繊維工業〕

- 後継者がいないです。ベテランになるのに時間がかかる事。
- 弊社取扱いの商品の70%が輸入品ですので、現在の円安による収益悪化が一番の問題点です。
- 糸全般で製造ノウハウが失われている。